

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL.108 (年4回発行)

■発行日 令和5年6月30日
■発行 三春まちづくり協会
■編集 三春まちづくり協会広報部会
三春町大字貝山字泉沢100-1(旧若駒寮)
TEL/FAX(62)3988

『地域で支えあう協働のまちづくり』

— 令和5年度三春まちづくり協会 —

本協会においては、会則の定めにより毎年総会を開催して、予算、事業、会則の改廃、役委員の承認、その他重要事項を協議いただいております。本年度は四月二十六日に開催され、全ての議案において賛成多数をもって可決されました。

相川協会長

あいさつ要旨



協会長

相川 義則

本日は、大変お忙しい中、三春まちづくり協会の、総会に出席いただき、誠にありがとうございます。

又、坂本町長様、企画政策様には、公私共、ご多用の中、御出席いただき、感謝申し上げます。

今年の滝桜は観測史上最も早い三月二十七日に開花、アツと云う間に満開、短期間でしたが、多くの観光客が街中を散策して頂きました。

今は新緑が美しい落ち着いた街となっています。

新型コロナウイルス感染症の為、四年ぶりの総会の実施となります。

新型コロナウイルス感染症はまだ収束しておりませんが、一堂に会しての会議が開催されたことは大変有意義で喜ばしいことです。

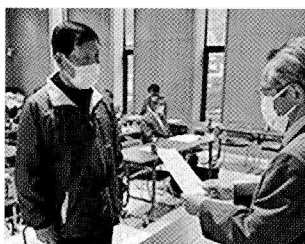
コロナ禍で行動制限がありました。行動制限は緩和されます。感染には十分注意して活動願います。

さて、少子高齢化の社会、地域で支えあう、協働のまちづくりが求められております。地域住民との対話が少なくなっており委員の皆様、地域でのコミュニケーションを図ることは大変重要な役割です。地区のサロン等でご尽力を頂いておりますが、一層のご尽力をお願いいたします。

本日は、今年度の活動



令和5年度三春まちづくり協会の総会の様子



新たに三春まちづくり協会の委員になられた方へ委嘱状を交付

方針等について審議して頂き、歴史あるわが街が安全で安心して暮らせる街、町民が誇れるまちづくりに、三春まちづくり協会が寄与出来るよう、慎重審議をお願いいたします。

三春町長
坂本 浩之



坂本町長

あいさつ要旨

三春まちづくり協会の皆様におかれましては、日頃より、町政全般にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

また、各種まちづくり事業や社会奉仕事業に積極的に取り組まれ、地域の活性化に大きく寄与されておりますことに對し、深く感謝申し上げます。

さて、本町におけるまちづくり協会という組織は、全国的に先進的な組織であり約40年の歴史があります。現在の日本の少子高齢化やそれに伴う様々な課題は、行政だけでなくまちづくり協会をはじめとした地域のみならず、さまのお力をお借りし課題解決に取り組まなければなりません。現在、町では協働のまちづくり推進事業としてサロン事業

や地域の移動支援、個別ゴミ収集事業に取り組んでおります。三春地区では8つの行政区でサロンが開設され百歳体操などの健康増進活動をされており、将来的には地域の小さな困りごとを地域で解決できるような支え合い活動の場に発展できればと考えております。

また、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更され、社会経済活動の制約が緩和されるなか、感染症流行前の活気を取り戻すためにも、まちづくり協会の果たす役割はこれまで以上に期待されるものと思われ、今後とも活力あるまちづくりの原動力とし積極的な事業推進をお願い申し上げます。

結びに、地域の皆様安心して暮らせるように、福祉サービスや子育て支援などの施策の充実に向けて取り組んで参りますので、三春まちづくり協会や行政区長をはじめとした地域の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

三春まちづくり協会役員

協会長 相川 義則 大町委員長 五十川一政 荒町委員長 佐藤 宗一 八島台委員長 人見 正司 各部長 6名
副協会長 大内 長久 中町委員長 永井 久 北町委員長 志賀 清昭 監 事 渡辺 正明
副協会長 小池 清美 八幡町委員長 大内 長久 新町委員長 先崎 正之 監 事 圓谷 彰孝 専属嘱託員 佐久間 寛

広報部会

○目黒 知希(北町)
○佐藤 久夫(大町)
齋藤 満儀(中町)
上田 秀高(八幡町)
伴野由紀子(荒町)
山口 晋(新町)
吉田 寿雄(八島台)

街並部会

○佐久間保一(八島台)
○中村 利孝(中町)
橋本 聡(大町)
渡辺 義広(中町)
須釜 孝治(八幡町)
宗像 明久(荒町)
渡辺 勝雄(北町)
根本 忠(新町)

地域部会

○渡辺 健二(北町)
○佐藤 仁一(大町)
阿部 誠一(中町)
本田 儀勇(八幡町)
青柳 秀子(荒町)
横山 博宣(新町)
根本 昌師(八島台)
橋本 武(商工会)
幕田 祐二(消防)
渡辺 清末(交設安全協)

福祉部会

○栗山富久子(中町)
○小池 春子(民生児童委員)
佐久間貞治(大町)
柴 佳代子(民生児童委員)
横田 耕治(荒町)
加藤 愛子(民生児童委員)
國井 文夫(民生児童委員)
荒井 しづ(民生児童委員)
橋本 孝行(八島台)

環境部会

○橋本 三郎(民生児童委員)
○渡辺 州広(民生児童委員)
浪岡 芳夫(大町)
額賀 恵一(八幡町)
渡辺 裕(荒町)
佐久間三夫(北町)
橋本 勇(新町)
加藤 明義(八島台)

生涯学習部会

○平山 聡(民生児童委員)
○松永 正人(三春小PTA)
渡邊 和江(民生児童委員)
島野 龍児(大町)
川又 暉之(中町)
岸田 和美(八幡町)
富田 康昭(荒町)
大内 里子(北町)
小松 興男(新町)
橋本 広治(八島台)
小松 功(三春中PTA)

◎部会長 ○副部会長

初心に聴く

■生涯学習部会

松永 正人

皆さまはじめまして、
こんにちは。この度、生
涯学習部会員の一人とな
りました、三春小学校PT
A会長の松永です。

現在は妻のほかに、小
学5年生の長男、小学2
年生の長女と、合わせて
4人で生活しております。
私の出身は、「わんこそ
ば・冷麺・じゃじゃ麺」
などで有名な、岩手県の
盛岡市になります。24歳
になる頃、三春出身の妻
との結婚を機に引越して
参りました。

学生時代はソフトテニ
ス部に所属しておりました
が、三春町に来て、初
めに驚いたことはあの
「田村高校」があったこ
とです。全国屈指の強豪
校で、当時から学校名は
知っていましたが、まさ
かこんな近所にある
とは夢にも思いません
でした。
私が三春町に来てから
13年目になります。知人
が全くいない中、今日に
至るまでには、実にたく
さんの出会いがありまし
た。そんな地域の皆様の
支えもあり、今ではこの
三春町が大好きです。三

春まちづくり協会での活
動を通じて、そして、三
春町での暮らしを続けて
いく中で、この先も多く
の出会いがあると思いま
す。人とのつながりに感
謝の気持ちを忘れず、三
春町に恩返しのためにも
精一杯努めて参りますの
で、何卒よろしくお願
いいたします。

■生涯学習部会

橋本 広治

これまで「三春わが
街」などで、まちづくり
の取り組みをイメージし
ていましたが、協会員と
して総会資料等を手にし
たくさんの目標を掲げて
すすめられていることを
知り、身の引き締まる思
いです。

生涯学習部会では、児
童生徒の安全を見守る活
動などを中心に、テーマ
に沿って取り組む計画で
すが、部会相互に連携し
ながら、全体事業も推進
していくことになりました。
昨年度はSDGsに関
する学習会も実施された
そうですが、40年来継続
されてきたまちづくりの
実践や現在のテーマなど
正に三春版SDGsその
ものかもしれません。
小さな活動でも絶やさ
ず積み重ねていくことに
大きな意義があると思っ
ています。協会員・部会

が連携し、多くの人が学
び合いながら、豊かなま
ちづくりにつながるよう
私自身も微力ながら務め
ていきたいと考えていま
す。

■生涯学習部会

小松 功

この度、三春まちづく
り協会生涯学習部会員と
して活動していくことに
なりました。

生涯学習は一生を通じ
て学び続けることを大切
にし、個人の成長や社会
参加を促進する重要な要
素だと考えています。

人生100年時代とい
われる現代では、働くこ
とだけでなく人生の充実
を誰もが重視するよう
になりました。生涯学習
を通じ、仕事だけではなく
趣味などを含め自己の人
格を磨き、豊かな人生を
送ることができるよう学
び続けて行きたいと思っ
ています。

任期中、部会員の皆さ
んと意見交換・活動等
を通して取り組んでまい
りますので、どうぞよろ
しくお願いします。

■環境部会

渡辺 州広

令和4年12月より「三
春町民生委員児童委員」
を行い、サロンや訪問・
聞き取り等を行い、今回

「三春まちづくり協会・
環境部会」として活動
となりました。今まで町
外でサラーマンを行っ
ていた事から町について
知らない事ばかりではあ
りますが、民生委員・ま
ちづくりを基にさまざま
な意見を頂き、役に立
てる活動が出来ればと思
います。

高齢者が多いサロンで
聞いた「町中に高齢者が
過ごせる(遊べる)場が
無い」や「街灯が少な
い」等の事や、部会意見
で「河川のクリーンアッ
プ」「ゴミ置き場の整備
」「空き家・害獣問題」等
「まちづくり・環境部会」
では解決出来ない様々な
案件であり行政機関も含
め考える必要もあります
まちづくり協会は何をす
るか？何が出来るか？も
まだ解りませんが、各部
会及び町・行政機関との
タイアップにより「三春
町のまちづくり活動」を
考えていければと思いま
す。

■環境部会

渡辺 裕

豊かな環境資源
旧三春中道路向かいに
ある雑木林で覆われてい
た低山が、視界の広がる
趣ある丘陵地に変わった
歴史を感じさせる三春の
町並み景観と繋がり、爽

やかな潤い空間となった。麓からつづら折りの坂を上ると、歩を進めるごとに町並みの景色が変わり、この先の眺めに期待が高まる。頂上に着くと担橋方面、高乾院方面、中町方面、大町方面、田村高校方面と四方八方を見渡すことができ、爽快な気分を味わえた。神社仏閣などの歴史・文化的な環境と、滝桜に代表される数々の桜の名木が景観に映える自然環境は、いずれも三春町を代表する豊かな環境資源となっている。

このような風情ある環境のもとで営む日々の暮らしの中から、自然と醸し出される人情味あふれる町民の温かさも、三春町を訪れる人達が感じる豊かな環境資源の一つに捉えられているのではないだろうか。

■福祉部会

小池 春子

昨年12月に「民生児童委員」の委嘱を受けたことにより、今年度「まちづくり協会の福祉部会」の一員となりました。

事業計画によると、「福祉部会」は、活動内容がいろいろあるようです。これから部員の皆さんのご指導を受けながら、部会のテーマである「元気

で健やかに暮らせるまちづくり」を目指した活動に関わることができればと思います。

活動にあたり、まず自分自身が心身ともに健康でなければならぬと思います。私も高齢者になり数年過ぎていて、ボケ防止のために地域の仲間とともに、運動・体操・サロン活動等に参加しております。「人生100年」と行かなくても、健康寿命を一年でも永くすべく楽しく過ごしております。

■福祉部会

國井 文夫

抱負

今般、三春まちづくり協会福祉部会委員として選任いただきました國井文夫です。現在、三春町民生児童委員として昨年12月より3年の任期で活動致しています。

「まちづくり協会」委員として、私たちのふるさと三春町の住民の方々、

また特に高齢者、単身者、お子様方がこの町に住んで良かったと思う様な町づくりをする為に微力ながら精一杯活動していきたいと思っています。どうぞ御指導の程よろしくお願い致します。

■福祉部会

橋本 孝行

この度、三春まちづくり協会福祉部会員として活動していくことになりました。

三春まちづくり協会福祉部会については何も知らなかったのですがホームページで福祉部会について確認しました。

福祉部会のテーマは「元気で健やかに暮らせるまちづくり活動」で町民の健康づくりを応援や支援することが活動内容と知りました。

私は退職後、朝20分、昼40分の散歩をして健康を維持しようとしていますが、他には何もしていないので部会で学んだことを参考に、町民の健康づくりに貢献しながら自分自身も健康に留意して元気に暮らしたいと思っています。

■福祉部会

小川 秀悦

この度、三春まちづくり協会の福祉部会委員を

仰せつかりました。三春町老人クラブ連合会所属です。

三春町へUターンして15年になりますが、その間に他の部会の委員を務めていた期間もありましたので二度目のまちづくり協会への参加となります。

これから10年以上を経過しており、この部会の目的、活動を見ますと福祉部会委員と云うよりも福祉を受ける側に居る年齢です。尚且つ、福祉に対する知識もあまり持ち合わせていません。しかし、これも縁と思い「心身ともに元気?」なうちに福祉を受ける側の立場で三春町の皆様のお役に立てればと思っております。

今後とも宜しく願いいたします。

■地域部会

青柳 秀子

この度三春まちづくり協会地域部会の一員として活動することになりました、荒町(深田和)の青柳秀子です。

今まで三春町に住んでいながら、町の事を殆ど知らない状況にありまして。

地域部会の活動のテーマとしては、「みんなが築くつながりのあるまちづくり活動」となっております。

り、散策路踏査や標柱・案内板の整備等です。散策路も一度も歩いたことも無く、改めて三春町の良さを発見出来ることを楽しみに、身近な所から少しずつ勉強して行き、人とのつながりを大切にしながら、微力ではありますが皆様の役に立てればと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

■地域部会

幕田 祐二

この度三春まちづくり協会地域部会委員として活動して行く事となりました、三春町消防団三春分団長の幕田と申します。宜しくお願い致します。

三春町の消防団員として三春町民の皆様が安全で安心して暮らせる町づくりの一翼を担って行ければと思っております。

日頃より三春分団七つの部が字内警戒や訓練ポンプ整備等を行い地域防災力の強化に努めております。

有事の際には町民の皆様の生命や財産を守る活動をして行きたいと思っております。

これから町に無くてはならない消防団として町づくり活動に取り組んでまいりたいと思っております。

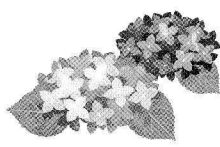
りますので宜しくお願い致します。

■広報部会

山口 晋

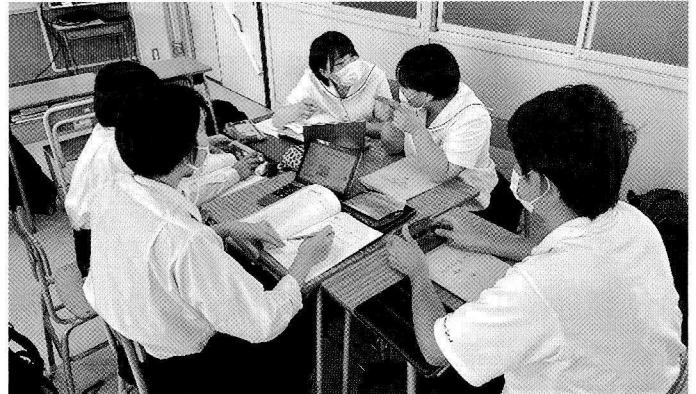
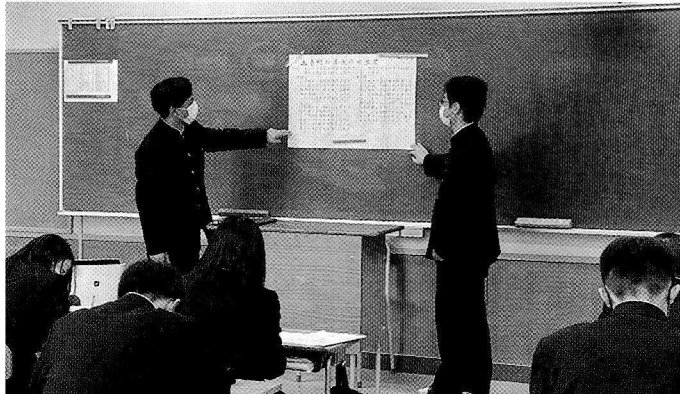
定年退職となつてから数年が経ち、何となく気にかかるまちの出来事や話題については、町の広報などを眺めることはありました。当然まちづくり協会が発行している機関誌「三春わが街」も目には止まっております。

昨年度から地区の行政に携わることになり、今年度から更にまちづくり協会の広報部会に所属するようにになりました。今までは機関誌の記事を読んだり眺めたりする立場であつたのが、一転して立場が逆転したと思います。広報部会は実際にどんなことをするのか不安があるものの、町民の方々にどんなことを伝えられるのだろうかといった期待する部分も感じています。どれだけ、どこまで何が出来なのかは分かりませんが、「まちづくり」のお手伝いをさせていただきたいと思っています。



田村高校生の「総合的な探究の時間（夢ゼミ）」の紹介

田村高校では、総合的な探究の時間（夢ゼミ）において、三春町の歴史、風景、町の課題、イベントなどを高校生の目線で探究し校内発表を行っています。そこで、三春まちづくり協会では、ご担当される先生方の協力を得ながら発表内容の一部を紹介いたします。



河野広中と選挙権

近年、若者の政治への興味・関心の低さが社会課題の一つとして問題視され、特に選挙の投票率の低さがあげられている。

そこで、私たちは「総合的な探究の時間（夢ゼミ）」の授業で、どのようにしたら政治への興味・関心を高め、投票率を上げることができるのかをテーマに探究を進めることにした。

三春町は明治時代に普通選挙の実現を求める運動（自由民権運動と呼ばれている）が盛んで、その中心となった人物が河野広中である。河野は三春町出身で、当時この自由民権運動の核となった2人の人物では「西の板垣退助」、「東の河野広中」といわれた人物でした。

明治 23 年に第一回衆議院選挙が行われ、制限選挙のために有権者は人口の 1.1% にすぎなかったが、投票率は 93.7% であった。この投票率をどのように理解すれば良いのか、有権者の政治的な関心が強いことがよくわかる。

そして、太平洋戦争後の昭和 20 年に男女普通選挙法が施行され、多くの国民が政治に関心を持ち積極的に関わるようになった。平成 28 年には選挙投票権年齢が 18 歳に下げられた。

しかし、令和４年７月の参議院選挙では投票率は約５２％と国民の半数しか投票に行かないという政治への関心が低く、選挙権の大切さが薄れていることがわかった。

自由民権運動の中心地であった明治時代の三春では、参政権を得て政治を変えたいという思いを持った若者が、政治に参加できるようにするために必死に普通選挙権獲得の運動を行っていました。

現在、私たちは 18 歳になれば必ず選挙権を得て政治に参加することが可能になりました。

若者一人ひとりが社会の一員であるという自覚を持ち、10代の代表としての高校生世代から各世代の人たちと協力し、多くの人が幸せを実感できる政治のあり方について考えることができれば、投票率も上がるのではないかと思います。

これからは選挙投票権の意義を理解して、よりよい社会を実現することが河野広中が描いた社会の姿に近づくことができるのではないかと思います。

田村高校 3 年 内山勝貴、酒井颯太

コミニティだより
「三春わが街」第一〇八号
発行日 令和五年六月三十日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会

「三春わが街」デジタル版
はこちらから！



三春町のホームページの中の地区まちづくり協会のページにつながるQRコードです。

▼「三春の春があつというまに過ぎ去つてしまつた感じがあまりしみて、これから緑輝年節も楽しみます。」▼さて、今年度に入りまして。また、今号から皆さんお手に取つてお分かりのようになつては珍しかったB4版サイズからA3版二つ折りに変わつたことです。ビジネス文書はB4版が主流ですが、B版は日本独自の規格で江戸時代の幕府御用達の美濃版から来ているのだそうぞう。A版はドイツ発祥のサイズ規格で何回分割しても綺麗な長方形で無駄がありません。A版が主流になつたのは国会で紙のサイズに対するルールが審議され、1993年の国の指針からだそうぞう。その後B版は特別な用途に使われるようになつたようで、「三春わが街」は特別だったのです。▼今はS・N・F・S全盛で三春町を始めいろいろな方が町内の情報発信をされています。そんな中で紙媒体は記事が占むない、いつでも読める内容であることが重要です。また誰でもが手に取つて読んでもけるよう意識しながら編集して行きたいものです。(吉田寿雄)

編集後記